

令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：日高地区
- 2 事例報告学校名：浦河町立浦河東部小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 石郷岡 卓
- 4 キーワード：地域の教育力を生かした特色ある教育課程

1 はじめに

本校は日高山脈を貫く天馬街道の南端、浦河町西幌別に位置する。街道沿いは、競馬ファンにとって格好のドライブルートで、五冠馬「シンザン」やG I優勝の最強馬「テイムオペラオー」などを生産した牧場が点在している。

1970年に上杵臼小学校・杵臼小学校・西舎小学校・浦河東小学校の4校が統合し、開校時は児童数200名を超えていたが、現在は児童数54名、家庭数42戸となっている。保護者の多くは、生産牧場・育成牧場の経営者や従業員、J R A職員や獣医、装蹄師など軽種馬産業に従事している。保護者・地域の学校教育に対する意識や関心は非常に高く、参観日はほぼ全家庭の保護者が来校する。また、自治会では、高齢化が進む中でも、花火大会やクリスマス会の開催、スケートリンクの設営など、児童生徒の健全育成に熱心である。

児童数の減少に伴い、P T Aやおやじの会、図書ボランティア等の活動を縮小せざるを得ない状況であるが、小規模校のメリットを最大限に生かした教育活動を推進している。

2 乗馬とスケート

(1) 乗馬学習

【背景】

乗馬学習は1992年（平成4年）から実施され、1994年乗馬体験学習公開研究会の開催、1995年に日高管内教育実践表彰を受賞している。本校から徒歩数分にある浦河町乗馬公園で実施し、指導者は乗馬公園職員とJ R A職員。乗馬公園使用料は町費で賄われ、J R A職員の方々は乗馬振興の職務としてボランティアで指導して頂いている。児童の中には、家が生産牧場の子どもや、乗馬クラブ、ポニー少年団に所属している子どももいて、騎乗レベルに差はあるものの、全員が指導者の指示の下、素直に楽しく乗馬に取り組んでいる。

【乗馬の練習内容】

全学年が年間3日間、1日2時間の乗馬学習を行っている。児童数が各学年7名～11名に対し、馬4頭が与えられるので、1日一人20分～30分程度の乗馬体験ができる。姿勢の保ち方、足の使い方、手綱の持ち方などを一通り習い、指導者の引き馬で手を回したり、足で軽く馬を蹴ってスタートさせたり、手綱を左右交互に引き、馬を方向転換させたりする。これらのことを各学年が段階的、継続的に練習しながら、馬への親しみや地域の主産業である軽種馬産業の理解を深めている。

【各学年の活動】

- 1・2年生：1年生は3回ともポニーに騎乗。2年生は2回目からはサラブレッドに騎乗。待っている児童は馬の観察など課題を決めて取り組む。



- 3・4年生：各自が自分に合ったレベルで練習する。

- レベル1 ポニーで引き馬
- レベル2 ポニーを自分で乗る
- レベル3 サラブレッドで引き馬
- レベル4 サラブレッドを自分で乗る

- 5・6年生：各自が自分に合ったレベルで練習する。

- レベル1 引き馬で常歩（なみあし）
- レベル2 自分で常歩（なみあし）
- レベル3 調馬索（長い手綱で馬を回らせる）で軽速歩
- レベル4 自分で軽速歩

【乗馬の練習内容】

乗馬学習は今年で30年目を迎える。現在、少人数のメリットを生かし、全ての児童に十分な時間、乗馬に取り組ませることができる。全校合わせて18回の乗馬学習は、5月中旬から始まり9月下旬まで続く。その間は、保護者の参観も多く、写真を撮ったり、ヘルメットやプロテクターの着脱など手伝ってくれたりしている。日程調整の段階から実施まで、乗馬公園、J R Aの職員の方々の協力は大きく、地域の学校に対する支援の厚さを感じる。本校では、将来は馬に関わる仕事をしたいと思っている児童は少ない。馬産地ならではのこの乗馬学習は、ふるさとを愛する心を確実に育んでいる。

(2) スケート学習

本町は数多くのスケート選手を輩出しているが、本校の卒業生からは小田卓朗選手とウィリアムソン師円選手の2名がオリンピック出場を果たしている。帰省した際は、本校に立ち寄り、かつてはこの地域のスケートリンクで幼少時から練習に励んでいたことを懐かしく話していた。

本町には、町の中心部に400mトラックのスケートリンクがある。町内の全小学校は、ここでスケート学習を行っている、本校もバスで現地まで行くが、隣接している中学校のグラウンドにスケート少年団で設営しているスケートリンクがある。小さなリンクであるが、徒歩数分で行けて、なおかつ低学年には丁度よい広さなので、昨年度から積極的に活用している。大きなリンクだと1周するのも大変だが、このリンクでは、遊び感覚で楽しくスケートができ、瞬間に上達していく。この時期のリンク設営は極寒の中で行われる。地域の方に、明日、スケート学習をしたいと言うと、前日夜から水を撒き、早朝積雪していた時はリンクの除雪までしてくれる。二人の小学生が、この小さなリンクから世界に羽ばたいた。去年は時数を確保し、10時間以上スケートができた。今年度からは時数を把握して、年間計画に位置付けたいと考えている。

3 おわりに

朝読書・すくすく（毎週1回の全校体力作りの取組）・親子ではなまる家庭学習強調週間（年5回）・アポイ岳親子登山・保護者個人面談週間・長期休業中に開催する職員会議など、本校では、これまでの校長が施策した特色ある教育活動や学校運営に関することなど多く、それを現在も引き継いでいる。これらの取組を形骸化させることなく、児童数の減少を少人数のメリットを生かすチャンスと捉え、一人も取りこぼさず全ての児童に学び続けるためのスキルを確実に育むことを教職員7名で共有し、実践していきたいと考えている。



▲雨天時には屋内練習場で

